

プログラム Q & A

プログラムについて、さらに詳しく紹介します。

ご不明な点などがありましたら、

博報堂教育財団の担当者までお気軽にお問い合わせください。

Q1 このプログラムの特徴は？

海外の同世代の生徒と日本語で交流できることが大きな特徴です。世界のさまざまな国の生徒と一堂に会し交流できる貴重な経験です。

Q2 海外からは、どんな生徒が参加しますか？

自国で日本語を勉強している、日本の中学生と同世代の生徒です。今までに、イギリス、インド、インドネシア、オーストラリア、スペイン、スリランカ、タイ、トルコ、ブラジル、ルーマニア、マレーシアなど、日本とは文化・宗教の異なる世界のさまざまな国・地域より参加いただきました。

Q3 決定通知が届いたあと、どうしたらいいですか？

財団が学校を訪問し、合同合宿、日本校訪問、ホームステイなど、これからの準備について詳しくご説明いたします。

Q4 国際交流は英語で行うことが主流だと思いますが、日本語主体の交流のメリットとは？

日本校の生徒にとっては、母語で交流するので積極的なコミュニケーションを取りやすく、自己肯定感や探究心を育む機会になります。

Q5 生徒たちに特別な事前教育は必要ですか？

はい。メインプログラムやサブプログラムのオンライン交流を充実したものにするために、海外校生徒に伝わりやすい日本語を学ぶ必要があります。そのために、日本校単独のサブプログラム「やさしい日本語講座」を受講していただきます。

Q6 参加費用は？

プログラムに参加するための活動費（宿泊費、食費、交通費、保険加入費などを含む）、海外校を受け入れる為の諸経費などは、財団が助成いたします。



博報堂教育財団 日本語交流 プログラム Japanese Language Exchange Program

日本を含め約10カ国の中学生が一堂に会し、日本語で交流します。

生徒が、文化の違い・コミュニケーションの難しさなどを体験することで、本事業の目的である『文化の異なる人と、社会的課題に向かってともに行動できる人』への第一歩を踏み出してくれることを、目指しています。



日本語交流プログラムに関するお問い合わせ > hakuho.gn@hakuhodo.co.jp

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp>

博報堂教育財団

search

博報堂教育財団

Hakuhodo Foundation

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2番3号 日比谷国際ビル14階 TEL 03-6206-6266 FAX 03-6206-6582

主催 公益財団法人 博報堂教育財団

後援 文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

メインプログラムと、4つのサブプログラムから構成されています。

サブプログラム

- 日本校・海外校__ (共通①)
- 海外校日本語教師による事前の日本校訪問
- 日本校_ (単独①)
- 海外校生徒に伝わりやすい「やさしい日本語講座」
- 日本校・海外校__ (共通②)
- オンラインによる事前学校交流
- 日本校・海外校__ (共通③)
- オンラインによる事後学校交流

メインプログラム

- 海外校生徒と日本校生徒との合同合宿
- 海外校生徒の日本校訪問受入
- 海外校生徒のホームステイ受入



11月	2月	3～4月	5月	7月
日本校 海外校 サブプログラム__ (共通①) 海外校教師による 事前の日本校訪問 * 海外校日本語教師約10名が日本校を訪問し、日本校生徒と交流します。 ※この時期、海外校日本語教師は、海外校生徒への指導方法学習のため、来日して事前研修を行っています。	日本校 サブプログラム__ (単独①) 海外校生徒に伝わりやすい 「やさしい日本語講座」 * 海外校生徒の学ぶ日本語を理解し、伝わりやすい日本語を学びます。 * 日本語講師が担当します。時間は40分程度です。	日本校 海外校 サブプログラム__ (共通②) オンラインによる 事前学校交流 * メインプログラムに先立って、学校紹介・自己紹介を中心としたプログラムです。 * 1回、約40分を予定しています。 * 日程は、海外校と調整の上決定します。	メインプログラム 日本語交流プログラム * 海外約10カ国から来日します。 * 海外校との合同合宿 (2泊3日) ○ 日本校は1校あたり、生徒約20名、引率教師2名が参加します。 * 海外校生徒の日本校訪問受入 (3日間) ○ 授業/昼食/課外活動を通じて交流します。 * 海外校生徒のホームステイ受入 (2泊3日)	日本校 海外校 サブプログラム__ (共通③) オンラインによる 事後学校交流 * 内容や日程は、海外校と調整の上決定します。

プログラムの
特徴

- 1 約10カ国の生徒が一堂に会し、グローバルな体験ができる
- 世界の様々な国や文化に一度に接することで、異文化理解が一気に深まります。
- 2 日本語で交流するからハードルが低い
- 海外から参加するのは、日本語を学んでいる、日本の中学生と同世代の生徒です。日本語教師も同行しています。会話は日本語中心のため、言葉の壁が低いです。
- 3 日本の子どもたちが主体的に取り組める
- このような国際交流でよく問題になるのは、日本の生徒が国民性もあり積極的に参加できないことです。しかし、このプログラムは、日本がお迎えする側のため、積極的に取り組める場面が多数用意されています。

- 4 オンライン交流で継続的な交流が可能
- 海外校来日の前後には、オンライン交流を行います。対面交流とオンライン交流の組み合わせで、継続的な交流が可能です。プログラム終了後も、オンラインで交流を続けている日本校もあります。
- 5 活動にかかる費用は、財団が負担します
- プログラム内の活動費(宿泊費、食費、交通費、保険加入費等)や海外校とのオンライン交流の推進にかかる費用(機器購入、環境整備、ICTサポート業務委託など：1年間/上限100万円)を助成します。



Japanese Language Exchange Program